

# 設定時点が未来の「効力持続」 ——未来まで広がる「ている」の用法について

江田すみれ

## ◆要旨

「ている」には、未来のある時点を想定し、それに向かって何かをしながら待つことを表す用法がある。これは発話時点・出来事時点が現在で、設定時点が未来であるため、未来を設定時点とする「効力持続」と位置づけられる。未来を設定時点とする「完了」とは性格が異なる。

この用法は「ている」を使うが、述べている内容が未来まで広がるので「る」に置き換えが可能である。この「ている」文を使うには、現在・未来がいつのことであるか認識できる相手が必要である。待つ事態は必ずしもよいこととは限らない。主に話し言葉で使われ、文末は「～しよう」「～して(ください)」「～ね」などの形が多い。

## ◆キーワード

「ている」、効力持続、設定時点、未来、話し言葉

## ◆ABSTRACT

This paper discusses one usage of the Japanese future perfect *-teiru*. In this type of sentence, the reference time is the future, and the speaking and event times are the present. The subject assumes a point in the future and waits for it to do something. This usage of the future perfect does not indicate completion of the event before the assumed time in the future.

To use this future perfect, we need a communication partner who can recognize what time is the present and what time is the future. The event we wait for need not always be a good thing. This type of sentence is used mainly in spoken language and often with the sentence final forms *-shiyou* (indicating volition) and *-te kudasai* (signaling a request) or the sentence final particle *ne*.

## ◆KEY WORDS

*-teiru*, future perfect, reference time, spoken language

## On One Usage of Future Perfect in Japanese

SUMIRE GODA



いうこと、(3) KYコーパスがインタビューであるため、未来パーフェクトを使う状況がなかった可能性があること、(4) この用法で語り合う相手が存在しなかったことなどである<sup>[註1]</sup>。考えていきたい。

谷口 (1997) は「テイル」形にはムード的な側面があるとして、①「待ち合わせ」、②「心理的な現在」、③「儀礼的な表現効果」、④「客観的な機能」、の4つの用法をあげている。

①の「待ち合わせ」は「未来の出来事について、話し手がある動作をしながら相手と合うことを期待している」(p.144) ような用法である。

- (1) 何かあったら呼んでください。ここでワープロを打っていますから。  
(例文は谷口1997より)

本稿では谷口 (1997) が「待ち合わせ」としたこの用法を、設定時点は未来、出来事時点・発話時点は現在であり、未来まで出来事の効力が持続する形、として、設定時点が未来の「効力持続」とする。この形は「ている」を使っているが、未来まで効力が持続することから、事態は「る」で表現が可能である。

### 3 調査方法

谷口 (1997) の「待ち合わせ」の「未来の出来事について、話し手がある動作をしながら相手と会うことを期待している」という記述に従い、以下の特徴を持つ例文を作り、日本語母語話者、日本語学習者 (以後NS,NNS) を対象に、「る」「ている」のどちらをよく使うか、ニュアンスは同じか問うアンケート調査を行った<sup>[註2]</sup>。NSは大学生50名、NNSは日本語学校で学ぶ中級以上の学習者80名であった。取り上げた特徴は以下のようである。

- ①話し言葉である。
- ②「待つ」対象の相手が存在する。
- ③未来に会うことを待ち望むことから、話者と待つ相手は一時的に離れるという文脈がある。

### 4 調査結果

紙幅の関係で2例の結果のみ示す。例文はアンケート用紙の番号でなく、本稿の通し番号を使う。

- (2) 「ちょっと事務室に寄ってから行くね」  
「じゃ、図書館で {a 待つわ / b 待ってるわ}。」
- (3) (夫から帰りが遅くなるというメールが来たときの妻の返信)  
「じゃ、夕飯、先に {a 食べるね / b 食べてるね}」

表1 NSとNNSの結果の比較

	NS					NNS			
	る	ている	両方	無答	合計	る	ている	両方	合計
2待つ	0	52	2	1	55	30	36	14	80
	0.0%	94.5%	3.6%	1.8%	100%	37.5%	45.0%	17.5%	100%
3食べる	3	45	7	0	55	76	2	2	80
	5.5%	81.8%	12.7%	0%	100%	95.0%	2.5%	2.5%	100%

- (2) は会話、(3) は話し言葉的な書き言葉であるメール文である。

NSは(2)で約95%、(3)で約82%が「ている」を選んだのに対し、NNSは「待っている」が45%、「待つ」が約38%、「食べる」が95%という結果になり、NSでは大半がこれらの状況で「ている」を選ぶのに対し、NNSでは未来であるということからか、「る」の選択が多い。

そして「る」と「ている」の違いを記述してもらったところ、NSでは、例えば(3)では「食べているけど、私の食事に帰ってくるといいですね」のようなニュアンスがあるなどの解答があったのに対し、「る」を使った場合は「そっけない」「冷たい」などのコメントが見られた。

## 5 分析

### 5.1 話し言葉であるか

先の (3) の文脈を (4) のように事実を描写する文章で表現すると、

- (4) 日本の家庭では、夫は会社の仕事が定時に終わらないことが多く、妻は夫の帰りを待たず、先に {a 食事する / b 食事している} 場合が多い。

「食事している」は動作継続あるいは習慣を表すこととなり、夫の帰りを待ちながら、という未来に関する表現とは解釈できない。

(2) のような会話、(3) のようなメールでは未来を設定時点とする効力持続の意味が表現されるが、それは、発信者と受信者が現在という時間を共にしており、未来についても同じように未来と認識できる関係にあるためであろう。

この用法は、書き言葉、話し言葉の別より、現在という時間について同じ認識を持てる相手が存在するか否かが大きな要素と言えるようである。

### 5.2 「待つ」対象は人かものか

これは未来の設定時点の内容はどのようなものであるかという疑問である。「待つ」対象は人間だけであろうか。自分で未来の一時点、事態を想定し、それを待ち望む場合はどうであろうか。

- (5) 飛行機が飛ぶのは明日になるそうだ。とりあえずホテルに行っていよう。  
(6) 来年退職だから身の回りを片付けていよう。

(5) のように飛行機の運航が再開される時を待つ場合は、「ホテルに行っていよう」は「これからホテルに行こう」という未来の意味になる。(6) の「身の回りを片付けている」も動作継続とともに、「身の回りを片付けよう」とい

う未来の意味を含む。待つ対象は人なく、事態でもこの文は成立する。

しかし、例えば、下の文では未来の事態を想定しているのに、なぜ「ている」が使えないのだろうか。

- (7) 彼が午後來るからお菓子を {買いに行こう / ?買いに行っていよう}。

これは (5) (6) が「ホテルに行って待つ」「片付けながら退職の日を待つ」のように「何かしながら待つ」という読みができるのに対し、「買いに行く」は「買いに行って待つ」とはなりにくいためであろう。

### 5.3 待つ対象と一時的に離れるということ

「待つ」という意味から、相手は一時的に離れるという意味を含むのではないかという仮説をたてた。次のような例はどうであろう。

- (8) 私台所をやるから、あなたあっちやってて。  
(9) あなた先に帰ってて。

(8) (9) は現在、相手は目の前にいる。しかし、これらの文も、このように話した後、話し手と聞き手は一度離れて何かをし、その後、また会うという文脈が存在する。これを「る」で表現し、

- (10) あなた先に帰って。

のようにした場合は、発話者はこの後「あなた」と接触するかどうかは不明になる。「ている」を使うことによって、対象と一時的に離れ、未来の設定時点を「待つ」という姿勢が浮かび上がってくる。

以上のほかにも疑問が出たので、それらについて考えていこう。

### 5.4 待つ対象はプラス評価のものであるか

谷口 (1997) は「期待」という表現を使ってこの用法を説明している。「期待」ということは、よいことを待ち望むのであろうか。(3) の文、

(11) 夕飯、先に食べてるね。

についてどのような未来の事態が設定可能か、考えてみよう。

(12) あなたはいつもそうやって遅いんだから。

などのように、腹を立てた口ぶりで語ることも考え得る。「期待」という先行研究の語にひかれてプラス評価の場合だけ考えてはいけないようである。

しかし、アンケートに答えたNSが例文 (2) (3) について、「る」を使う場合は「そっけない」「冷たい」のに対し、「ている」を使うと「相手を待っている」「あなたのために」というニュアンスが出る、とコメントしていることからわかるように、相手と時間を共有しているという文脈から、相手との間に一定の関係を保つことは表現されていると言えるであろう。文脈によっては配慮を示すことにもなる。しかし、この「ている」が使える文脈で、未来であるからといって「る」を使った場合は相手との関係性は表現されなくなる。そのため、学習者がそのことを知らずに「る」で文を作った場合は、意図せずに、相手の存在を考えない「そっけない」表現となる可能性がある。

## 5.5 文末制限があるか

(13) 飛行機が飛ぶのは明日になるそうだ。だからとりあえずホテルに行っている。

(14) 飛行機飛ぶの、明日になるんだって。だからとりあえずホテルに行ってるね。

(13) のように「ている」の言い切りの形にした場合は現在の動作継続や結果状態の意味になりやすくなり、効力持続の意味は薄くなる。「～よう」「～てください」などの形が未来との関係性を表現しやすくしていると言える。

また、文体の影響もあるようである。(14) のように「ね」をいれ、親しい関係の話し言葉にすると、「ホテルに行っている」という意味だけでなく、「ホテルに行くね、お先にね。あっちで待ってるよ」のように未来の意味が現れる。

相手が必要というのは、「待つ相手」が必要というより、文を発話して関係性を維持する聞き手が必要ということであろう。(5) (6) のように自分に対して語りかける文は自分を相手として語りかけ、納得させるという文脈なのである。

## 6 まとめと今後の課題

以上見てきた設定時点が未来の効力持続の用法をまとめよう。

- 1 未来のある時点を想定し、それに向かって何かをしながら待つという意味を表す。「ている」を使うが、未来を意味するので「る」に置き換えが可能である。
- 2 現在、未来がいつのことであるか認識できる相手がある場面で用いる。自分を相手として自分に語りかけることも可能である。
- 3 待つ事態は必ずしも良いこととは限らないが、この「ている」を使った場合は、相手との間に一定の関係性を保つことが表現される。
- 4 話し言葉あるいはメールなどの話し言葉的な書き言葉で使われ、文末は「～しよう」「～して(ください)」「～ね」などの形が多い。

日本語の話し言葉では、この設定時点が未来の効力持続が使える場面で、未来であるからといって「る」で表現すると、「冷たい」「そっけない」などと受け取られることがあるので、よく使う「先に～してる」「待ってる」などの表現はかたまり表現として教育に取り入れるのも一つの方法であろう。

この用法がどの程度使われるのかについての調査は今回行っていない。また、語彙のバリエーションはどの程度あるのかも触れることができなかった。次回の課題としたい。

〈日本女子大学〉

## 注

[注1] …… 査読者に (3) と (4) の点をご指摘いただいた。

[注2] …… アンケートで用いた文は全部で9問あったが、紙幅の関係ですべてを出すことはできなかった。

## 参考文献

- 庵功雄 (2001) 「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』4, pp.75-94.
- 庵功雄 (2011) 「第二回 テンス・アスペクトをめぐって」『中国語話者のための日本語教育研究』2, pp.59-67. 中国語話者のための日本語教育研究会
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語のパーフェクトをめぐって」『ことばの科学』3, pp.53-118. 言語学研究会
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 江田すみれ (2013) 『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト—異なるジャンルのテキストにおける使用状況とその用法—』くろしお出版
- 田窪行則 (1993) 「談話管理理論から見た日本語の反事実条件文」益岡隆志 (編) 『日本語の条件表現』 pp.169-184. くろしお出版
- 崔亜珍 (2009) 「SRE理論の観点から見た日本語テンス・アスペクトの習得研究—中国人日本語学習者を対象に—」『日本語教育』142, pp.80-90.
- 崔亜珍 (2011) 「自然発話における日本語テンス・アスペクトの習得研究—R時の認識を中心に—」『小出記念日本語教育研究会』19, pp.5-22.
- 高梨信乃 (2013) 「上級学習者のテイル形使用にみられる問題点—文法指導の隙間—」『日本語／日本語教育研究会 第5回研究大会予稿集』 pp.24-31.
- 谷口秀治 (1997) 「「テイル」形に関するムード的側面の考察」『日本語教育』92, pp.143-152.
- 張麟声 (2001) 「おまえが大学をでるときには、おれはとっくに死んだ」張麟声 (著) 『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例』 pp.136-147. スリーエーネットワーク